

『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	平成21年3月2日
作成部署	建設交通部 道路建設課

事業名	国道175号(大川橋)橋りょう新設改良事業	地区名	舞鶴市八田～藤津
概算事業費	約97億円	事業期間	平成11年度～平成23年度
事業概要	線形不良・幅員狭小によって発生している渋滞の緩和と自転車、歩行者の安全を確保するため、橋梁の架け替えを含むバ <sup>1</sup> ハ <sup>1</sup> 入道路を整備する。 ○道路築造工:延長1,175m 橋梁部 延長 401m 幅員 21m(4車線) 両側歩道(2.5m) ○橋梁撤去工		
目指すべき環境像	府を代表する河川(由良川)の下流に位置し、周辺は河川敷を利用した田畑がある里地里山環境である。本地域の生活道路は、国道175号線を幹線としたネットワークで形成されており、本国道の整備が望まれている。		
関連する公共事業	由良川下流部(水防災対策河川特定事業):国土交通省		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	○	<p>施工地の道路は急勾配で線形が悪く、幅員も狭いため渋滞が頻繁に発生する。</p> <p>橋梁設置箇所である由良川は、多くの野生生物が生息しているため、生息環境を保全しながら工事を実施する必要がある。</p>	<p>事業実施により、交通の円滑化が図られるため、年1,300tのCO<sub>2</sub>排出量の縮減が期待できる。</p> <p>河川内を工事する際には、油流出防止ネットを設置し、河川環境への配慮を実施するなど、野生生物の生息環境を悪化させないようにする。</p>	4
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種	○			3
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	<p>施工地は急勾配で線形が悪く、歩道がない区間が存在するため、歩行者通行の安全性を高める必要がある。</p> <p>工事施工にあたっては、由良川の水質悪化を防ぎ、付近の土壌環境を良好に保つ必要がある。</p> <p>人家が連担しているため、大型車の交通から発生する交通振や騒音を低減させる必要がある。</p> <p>事業の実施により発生する建設残土の抑制を図るとともに資源の有効利用に努める必要がある。</p>	<p>全線にわたり歩道を計画することで、歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>また、バイパス化によって旧道沿いの人家の生活環境(騒音・振動)の改善を図る。</p> <p>地盤改良実施にあたっては、水質、土壌環境を悪化させないように、現地の土を用いて事前試験を行い、適合する材料を使用して施工する。</p> <p>切土と盛土のバランスを考慮して残土の有効利用ができる道路計画を策定し、リサイクルに努める。</p>	4
	水環境・水循環	○			3
	大気環境				
	土壌・地盤環境	○			3
	騒音・振動	○			4
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	<p>事業予定地の周辺は自然が豊かな地域であり、また、古くから伝わる藤津神社の祭事を地域住民が協力して存続させているため、地域個性を守る必要がある。</p>	<p>神社を移転復元し、地域文化に配慮した公共事業を図る。</p> <p>地域住民から長年にわたり親しまれてきた旧橋の色彩を新橋にも取り入れる。</p>	3
	里山の保全				
	地域の文化資産	○			4
	伝統的行祭事	○			3
	地域住民との協働				
	その他				